

発行 社会福祉法人 春風会 理事長 石川三義 〒410-0302 静岡県沼津市東椎路1742-1 回 055(967)1166代 055(967)3566 春風会HPアドレス <http://www.shunpuukai.com/>



新春 (伊豆中央ケアセンター特養)

人生百年時代に自分らしく最期を迎えるために
——看取り文化の再生と介護職への社会的評価を——

社会福祉法人 春風会 理事長 石川 三義

昨年、私は、コロナ禍の中で98歳の母親を自宅で最期まで看取らせていただいた。6年前から毎年1か月前後の入退院を繰り返しながら在宅で最期まで介護し続けることは、決して容易なことではなかった。私の母親の場合は、まさに「ときどき入院、ほぼ在宅」であった。私は特養あしたかホームで開園時から施設での看取り介護を推進し、看取り介護を実践してきたが、いざ自分の親を自宅で最期まで看取るとなると話は別である。いつまで介護が続くのか、また最後の半年間なかなか家を空けられないこと、やはり半年ぐらい昼夜目が離せない状態が続いたこと、看取り介護の経験のない家族が死に行く人を受容し、先の見えない介護を続けることへの精神的不安はかなりあったと言える。施設での介護が分かっていなければならないほど、施設へ入所していただいた方がより十分なケアができ、家族も精神的に楽だし、安心だろうとも思えた。

さて、「人生の最期をどこで迎えたか」のアンケートでは、自宅が47.2%で最多であるが、しかし実際自宅で最期を迎えることができた人は13.5%と、国民の希望と現実は大きくかけ離れている。我が国は、昭和30年代には病院死が15%、自宅死が70.7%であったが、昭和52年を分岐点にして両者が逆転し、平成8年には病院死が74%、自宅死が18.3%と

なっている。今、国は地域包括ケアシステムの構築を掲げ、在宅医療・介護の連携を基に在宅での看取りを推進している。その為に先ず、24時間体制の在宅医療と介護の一体的提供の実現が不可欠であると言われている。しかし、一方の在宅介護を担う訪問介護職員の慢性的不足と高齢化が極端に進んでいることが極めて危惧されることである。それだけではない。昭和30年代から現在までの半世紀にわたり、病院死が増えたことにより、地域や家で人を看取るための知識や技術、精神的支柱が消えてしまったことである。つまり、我が国から「在宅での看取りの文化」が消失していったと言える。私自身、母親を介護していて実感したことがある。従って、在宅医療と介護の一体的提供だけではなく、もう一度地域社会や家庭の中に「看取り文化」の再生をしなければならぬと思えた。終末期において医師や看護師が評価されて、同じく終末期により多く携わる介護職員が評価されなかったら、介護職の人材も今以上に不足し、在宅での看取りはますます不可能となるであろう。人生百年時代において、人の看取り介護を行う介護職は、極めて重要な使命と役割があると言えるし、また人間性豊かな大切な仕事、誇り高き仕事であると高く評価されなければならないと考える。

令和3年度 社会福祉法人 春風会 理事長報告

例年、役職職員合同研修会として職員が一堂に会して行われていた研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、今年度は法人の各施設・事業所・部署を54台のパソコンと接続してのWEB会議として開催され、令和3年度における春風会の事業経営方針について、理事長報告及び基本方針の訓示が役職職員に対し行われました。

令和2年度は、法人並びに各施設では新型コロナウイルス感染症対策を最優先として取り組んで来ました。そのため、法人が当初計画していた各種事業を始め、施設の多くの行事等を実施することが出来ませんでした。新型コロナウイルスの感染拡大は、新年度に入っても終息する気配はありません。法人としては新型コロナウイルス感染症対策を更に強化しながら新規事業を企画して各種事業を実施していきたいと考えています。

令和3年度の重点目標



Webによる年頭あいさつ

① 非営利法人として公共性・公益性という法人の本質を遵守し、健全な法人経営に努め、地域福祉の推進と社会貢献活動の事業を積極的に展開していく。また、福祉教育の継続として、小中学生を対象とした夏休み福祉体験学習を継続実施していく。

② 法人は平成26年度から保育施設や複合施設、地域密着型介護福祉施設などの施設整備を進めてきた。今後も、子ども・若い世代・障害者・高齢者まで、世代と障害の枠を超えて、共に支え合い生活できる複合施設作りをしていく。

③ 高齢者福祉・介護の分野で、特養ホームに入居できない要介護1・2の高齢者をはじめ、一人暮らし高齢者や高齢者世帯の事業対象者や要支援1・2の高齢者を対象とするサービス付き高齢者住宅の整備とその併設施設として定期巡回・随時対応型訪問介護事業、地域福祉センターや診療所・クリニックを整備し、医療と福祉の総合化、在宅医療・福祉の連携のもと地域包括ケアシステムの実現に向けて検討していく。

④ 子育てしながら働く職員の支援を進め、安心して子どもを産み育てる職場環境を整えていく。伊豆地区における企業内託児所の整備、若い職員やEPA、技能実習生を対象とした社員寮の整備を検討していく。

⑤ 外国人介護職員の雇用の増加に合わせ、外国人介護職員対象の育成マニュアルの作成を進める。また、介護のIT化の研究、ロボット化・機械化の推進・介護の仕事の分業化の推進を図っていく。

⑥ 救護施設や障害者施設の分野

では、これまでの福祉の枠に捕らわれない新たな農業・福祉連携事業として、耕作放棄地での稲作、未利用園芸施設を借用しての障害者・高齢者の農業従事と農産物の直売所や軽食提供施設の開設などを検討していく。

⑦ 障害者福祉支援事業では、障害者の共同生活のグループホームや重度障害児者に特化したグループホームの整備を検討していく。

⑧ 高齢者の在宅支援事業では、機能訓練に特化したデイサービス、法人独自の入浴サービスの復活、買い物外出・通院等の移送・移動支援など、実施できることから進めていく。

⑨ 法人事務部門の統一化・効率化を進め、法人本部体制の再検討をしていく。

今年度も、春風会の保育・介護・福祉のブランド力を更に高め、地域からの信頼と期待にこたえていき、働く職員一人ひとりが誇りと歓びと感謝の心を持って仕事ができるよう努めていきます。

令和3年度 社会福祉法人春風会 事業経営基本方針

令和3年度は、以下の6項目を重点項目として取り組んでまいります。(要点のみを抜粋)

- 1 利用者の人格を尊重し、職員の助け合う心と創意工夫の発揮、信頼される施設づくり**
 - ・利用者一人ひとりの人格を尊重した常に質の高いサービスを提供する。職員一人ひとりが夢と誇りを持って、楽しく生き活きと働ける魅力ある職場、遣り甲斐のある職場作りに全力で取り組む。
- 2 職員の研修教育・キャリアアップ制度の充実、資格取得への支援と福利厚生への推進**
 - ・職員の人材確保と育成に全力を挙げて取り組み、職員研修・教育体制の充実を図る。そのため、新規採用職員を対象としたトレーナー制度の充実・強化、障害・保育・介護現場の中核をなす中堅職員を対象とした中堅職員研修の充実とリーダー研修において、副・主任の職務の明確化を図り、リーダーシップを発揮しやすい体制作りを構築していく。
 - ・一人がリーダーのチームではなく、全員がリーダーシップを発揮できるチーム作りをする。
 - ・職員の子ども等への奨学金の貸付制度や日本語学校に在籍している外国人留学生への法人独自の奨学金貸付制度の創設をする。
- 3 健全で安全な経営と職員のモラル・マナー教育の推進**
 - ・全職員が笑顔で挨拶を基本にし、職員間のマナーと来園者への挨拶の徹底を推進する。
 - ・正しい言葉遣いの徹底と日々の介護の中でも常に笑いのある介護を推進する。
- 4 施設内委員会活動、科学的介護と穏やかな看取り介護の推進、栄養部門の改革、在宅事業の強化**
 - ・法人に新型コロナウイルス感染症対策委員会を設置すると同時に、各施設の感染症対策委員会・研修委員会等の各種委員会の取り組みを強化。介護事故ゼロへの取り組みと事故原因究明のための現場主義の徹底を図る。
 - ・法人全体で科学的介護と穏やかな看取り介護の取り組みを推進する。介護の分業化の研究と看取り介護のマニュアル化・テキスト化を推進する。
 - ・栄養部門は介護食や献立メニューの開発と配食サービスの拡充、クックチル調理法を用いた給食方法の導入を検討する。法人で食料品、介護用品などの一括購入・共同仕入れ、給食の下処理センターなどを検討する。
- 5 介護・保育・障害の福祉の魅力発信と福祉現場でのIT化の推進、生産性の向上を図る**
 - ・保育、介護記録の電子化、高齢者の見守りセンサーやベビーセンサーの活用、インカム無線機の導入など介護機器の積極的な導入、介護ロボットの活用、福祉現場の情報化・IT化を法人の全施設で推進する。
 - ・付加価値のあるサービス提供、買い手本位の発想を常に取る。利用者・家族が抱える問題点を探し出し、それに応えるサービスを提供する。
- 6 法人職員の活性化と育成、70歳までの継続雇用と子育て支援・EPA等での人材確保対策**
 - ・昨年4月より退職年齢を65歳に引き上げ、70歳までの継続雇用とした。更には、介護の仕事の分業化・細分化し、75歳、80歳まで働く事の出来る雇用形態を確立する。
 - ・結婚や出産等で一度退職した職員を職場に復帰できるように積極的な支援策を推進する。
 - ・妊娠中の職員も安心して働け、出産して職場復帰できる職場環境、企業内託児所の整備を推進する。
 - ・EPAによる外国人介護職員の確保と並んで外国人技能実習生の受入れを推進し、5年後、10年後に備えて外国人介護職員の確保と育成に努める。



各部署でのモニター視聴による研修参加

令和3年度 社会福祉法人春風会 新規学卒採用予定者入社内定式 明日の法人を担う新たな仲間たち

春風会では昨年12月12日(土)に、令和3年4月1日付け新規学卒採用予定者の入社内定式を行いました。今年度の新規学卒内定者は11名(令和3年1月1日現在)です。

内定式では、内定者の自己紹介のほか、各施設長及び先輩職員から内定者へのメッセージ、先輩職員を交えてのディスカッションが行われました。新型コロナウイルスの感染拡大により学校での講義や授業、施設実習などに影響がある中、皆さん

社会人になることへの不安を抱えていましたが、4月から皆さんと一緒に仕事ができることを、法人職員一同心待ちにしております。



内定者の
出身校

静岡福祉大学2名・東海大学1名
常葉大学1名・常葉大学短期大学部1名
静岡県立大学短期大学部1名
知徳高校3名・沼津中央高校2名

令和2年度 法人新人研修 について

春風会では新人職員育成の施設間格差解消と均一化を図るため、毎年6月、10月に法人新人研修を実施しています。1回目は新人職員としての接遇マナーの習得、入社からの仕事を振り返り、共感し合う。2回目は職場内でのコミュニケーションをとる方法。1回目からの振り返りと2年目に向けての心構えを身につける事を目的としています。

今年度は新型コロナウイルスの影響から開催時期も大幅に遅れ、2回開催だったものを1回開催に統合しリモートでの研修を12月9日に実施しました。本来は午前中に講義、午後にグループワークの時間を設け、1日がかりの研修スケジュールですが、リモートでの研修になる事から内容の見直しを図り講義に1時間、グループワークに1時間の2時間の研修スケジュールを設定しました。

初めての試みだったリモートでの研修の仕方がわからず、事前に担当職員に向けたリモートについての説明研修を行い、理解を深めてから本研修を実施しました。

当日は事前研修の効果もあり、不測の事態による研修の中断など、大きな混乱もなく実施する事ができました。対面でない事から参加者が自分の意見をしっかりと伝えられるのか、共感を得る事ができるのか不安でしたが、「同期と悩みを共有し、アドバイスをもらえたので参加できて良かった。」「皆同じような事で悩んでいた事がわかり、気持ちが一掃されました。」等の感想を得る事ができ、例年と同様な効果の研修が行えたのではないかと感じました。

グループワークでは全体をリードし、自然と司会を行ってくれた新人職員がどのグループにもいたため感心したとともに今後の成長と活躍が楽しみになりました。また一人一人の表情を確認しながらすすめる事ができるという、リモートならではの利点を感じました。今回限りでなく今後は更にリモート研修活用が増え、いろいろなパターンを駆使する事によって、新しい研修スタイルが定着し、研修方法の幅が広がっていくのではないかと思います。

グループワークでは全体をリードし、自然と司会を行ってくれた新人職員がどのグループにもいたため感心したとともに今後の成長と活躍が楽しみになりました。また一人一人の表情を確認しながらすすめる事ができるという、リモートならではの利点を感じました。今回限りでなく今後は更にリモート研修活用が増え、いろいろなパターンを駆使する事によって、新しい研修スタイルが定着し、研修方法の幅が広がっていくのではないかと思います。



みはるの丘浮島も開所して十七年が過ぎようとしています。

特養での看取りケアは、病状の改善が見込まれない方に対し、延命治療は行わず、苦痛の緩和に努め、慣れ親しんだ施設で、ご家族や職員に見守られながら最期のときを迎えていただくものです。それは決して特別なことではなく、私たちが日頃の関わりの中で、今できる精いっぱいケアをより丁寧に、より親切に、より安楽に行うことです。

その方の人生の中の大切な時間に立ち会わせていただいているのだと感じています。

ある日、Aさんから「ラーメンが食べたい。」という要望を介護士が受けました。しかし経口的に食事や水分をとれるような状態ではありませんでした。介護士から看護師、栄養士へと連携をとり、ラーメンのつゆゼリーができあがり、早速ご本人の元へ。そして、ひと口：

くしゃくしゃな顔で「まずい！」と言いなながら、半分くらいを召し上がりました。ご家族も職員も皆、大笑いして一緒に過ごすことができました。後にご家族から、「あの時のくしゃくしゃな顔が忘れられない」と言葉を頂きまし

た。

また、「ビールが飲みたい。」という要望に、「ビールの色・泡をミニジョッキに再現したり、桜の花が見たいという要望にも、酸素ボンベを携えて近くのお寺で花見をしたこともあります。」

私たちは、いつも死にゆくひとの一番近くにいます。

「どこで最期を迎えるか。」「誰とどのよう過ごしたいか。」「誰をいつも考え、最期のときを穏やかに迎えられるよう旅立ちのお手伝いをする大切な役割があると考えています。」

看取り後、今後の看取りケアをより良くしていくため、ご家族にアンケートをお願いしています。「みはるの丘浮島で最期を迎えられて本当に良かった。ありがとうございます。」「お叱りの言葉もあります。ご家族からの生きたご意見、感謝の言葉は、職員の励みになっています。」

これからも日頃の関わりを大切にしながら、多職種それぞれが持つ力を活かし、ともに一人ひとりの入居者と向き合い日々のケアにあたっていくたいと思います。死にゆくひとの命から「生きること」を学び、感謝して・・・

春風会ケアマニュアルの改訂

沼津市立高尾園



「介護は人なり心である。」この言葉は、私が三十年前に、当時の上司が何度も話されていた介護の教えです。豊かな心と適切な介護技術、そして健康な身体を持つこと、介護に必要な心技体についての考え方も繰り返し教えて頂きました。

春風会では、介護マニュアルを平成12年から発行し、今回で3回目の改訂となります。法人事業の新たな拡大や法人独自の研修システムに順応できるマニュアルの作成が必要となり、法人が設立当初から大切にしてきた介護の教えと新たな時代の介護の知恵や技術を統合し、「心の介護の重視と介護サービス標準化・統合化」という視点を目標として、子供・障害者、高齢者、生活困窮者など世代や障害の枠を超えて、提供されるレベルの高いサービスを提供できる職員であっても提供できる

ようにケアの質の担保を目指して参りました。

今回のケアマニュアルの冒頭、第一章に、「介護の仕事に誇りを持つ」という言葉を新たに含めました。私共の仕事が現在の社会の抱える課題や個別の生活課題の解決を必要としている人々のために、そのかけがえのない命や人生を守る、誇り高き仕事であると記述しました。このケアマニュアルから、介護の仕事に誇りを持ち、自信と人間性豊かな心を持った職員が今後もたくさん生まれていくことを私共は望んでいます。

最後に、今回、現場で働く職員から介護に対する思いや教えを集めて作成した職員一人ひとりの7つの介護の心得を紹介致します。

- 日々の生活に笑顔と喜びが生まれる介護をします。
- 最初に分かりやすくお声かけをして、優しく接します。
- 一人ひとりの人格を尊重し、寄り添います。
- 感謝の心を持ってお世話をさせていただきます。
- 一人ひとりのかけがえのない人生を大切にします。
- 仕事に責任と誇り、喜びと生きがいを持って働きます。
- 私たち職員は互いに助け合い、心を合わせます。

もくせい苑での 計画農業



も

く

せい

苑

の

取り

組み

み

組

み

み



昨年の7月以降もくせい苑の農園に隣接する他法人の農地が使用休止となり耕作面積地約870㎡を当苑で拡充し計画的な農園づくりを始めました。質の良い農産物を作るうえで最初に水捌けの良い改良工事、次に粘土質の土を掘り起こし、食品残渣を資源とした農土香の完熟堆肥・剪定枝のチップや牛糞肥料を投入し土壌改良を行いました。これらの工程を基本に有効活用となる作物の選定・鳥獣被害対策を課題とし計画的農業を行っています。耕作面積が拡大され人力での作業からパワーショベルの導入。また、利用者さんのお宅でトラクターの中古車を寄付して頂き作業効率が倍増しています。年間を通しの作物栽培では売上貢献度と栽培費用・栽培労力を考慮し、さつま芋、里芋が最も良い。また、昨年試作栽培を行った自然薯が形も整い販売可能となりました。例年栽培をしているトウモロコシはリスクがあるものの貢献度が高い作物です。利用者さんは種蒔きや収穫、作物洗浄と袋詰め作業を行い農福連携の基礎作りができて始めています。今後、も安全で安心した新鮮な作物と安価で提供できるよう努めていきます。

社会貢献の エコバッグ 販路拡大



私たちの生活の中で、便利なレジ袋は地球温暖化などの環境問題により、令和二年の七月一日より、プラスチック製の買物袋が有料化となりました。もくせい苑では、一昨年の夏から伊豆の国市と市内のセブンイレブンとの包括連携により、大小のオリジナルのエコバッグを製作し、市内1店舗で販売が開始され人気を集めていました。今回のレジ袋有料化に伴い、以前の刺繍入りワンポイントから、新たに導入したガーマントプリンターにより、利用者の鉄兵さんが描いたキャラクターに変更し、体裁も機能的なバックインバックの折り畳み式にグレードアップした作りとなりました。ニューモデルのエコバッグは、新たに市内6店舗のセブンイレブンにて販売が拡大されました。この包括的連携は、県内でも初めての試みであり、伊豆の国市・セブンイレブン・障害者施設とのコラボレーションにより、社会貢献事業としての取り組みが始まったものです。皆さんも、伊豆の国市内のセブンイレブン7店舗で、もくせい苑のエコバッグを見かけたら是非手に取って見て下さい。

あしたか
ホーム

ゾーニングがシミュレーション

二〇二〇年一〇月一九日、NHK静岡放送の「たっぷり静岡」にて、あしたかホームにおける新型コロナウイルス発生時のゾーニング対応方法の取材を受けました。まず、石川施設長より春風会の感染症に対しての考え方、現状行っている対策について説明がありました。施設においてコロナウイルスへの対応は初めての事ではあるが、これまでインフルエンザやノロウイルスといった感染症への対応してきた経験を活かしていくこと。実際に発生した場合は、自法人または、他法人も含めたネットワークを活用し、共助していく体制を構築していることを伝えられています。

その後あしたかホームにおけるゾーニングの方法を、実際の現場にて確認したり、マニュアルを用いて説明させていただいています。ポイントとしては、人・物・環境のそれぞれが、レッドゾーンとその他の清潔領域といかにして交わらない様にするかの考え方にあると思います。



様々な想定のもとマニュアル策定やゾーニングの検討を進めておりますが、今後どのように感染が拡大していくかはわかりません。現場で考え、状況に合わせて柔軟に対応していく力を養っていくことが求められていきます。

高尾園

新型コロナウイルス対策に
おけるゾーニング

十一月三十日（月）高尾園でゾーニングシミュレーションが行われました。ゾーニングとは感染者と非感染者の区域を分けし、感染拡大を防止することです。高尾園は実際に感染が発生した際に迅速に動けるようにすることを目的に行いました。

訓練の概要として、発熱した利用者二名が指定医療機関へ受診しPCR検査した結果、コロナウイルス陽性と診断されたことを仮定し、二名とも症状が軽症であったため入院に至らず、施設に戻りレッドゾーンでの対応。また職員二名、他の利用者七名が濃厚接触者となり、保健所指示のもと職員は自宅待機、利用者はイエローゾーンでの対応としました。直接処遇する職員は防護服を着用し、他者と接触しないよう非常口から施設内のレッドゾーンに入り、食事の配膳や排泄介助等を行ったり、部署ごと関係機関への連絡及び今後の対処法、遠隔通信の実施等も行われました。今回のシミュレーションを通して、予め用意してい



た物品が足りない、使いにくいことが判明。防護服の正確な着脱方法、物品の配置や感染防止するための動線等、あらゆる視点から見ることで間違いや課題などを発見することができました。感染者といかに接触する回数を減らしながら支援できるかの体制づくりや、感染拡大を防ぐ重要性等、実際に行うことで気づかされることや新たな発見が数多くありました。机上で考えたことと実際に行うのでは違うのだなと改めて感じることもできました。

地域の安全を支える
指定避難所に

「ふらつと月ヶ瀬を避難所にしてほしい」。

思いもよらなかつた地域住民の方の声。

複合施設ふらつと月ヶ瀬の建設地は小学校の跡地。今も残る小学校体育館が避難所でした。十分な環境とは言えず、以前から「ふらつと月ヶ瀬」を避難所にといい思いがありました。



地域住民の方の声により、まずは自主避難所として協定を結びました。締結後、大きな台風が二度来襲、52名の方の避難もありました。この実績から、指定避難所として改めて協定を締結。より安全を高めるため、伊豆市の助成を受けシャッターを設置、また、停電に対応すべく非常用電源設備も伊豆市で整備中です。

地域住民の役に立つ、また喜んでもらえる「ふらつと月ヶ瀬」になること、これこそが私たちの目指す地域福祉であると考えます。

非常時に備えて
エンジンポンプ購入

昨年11月に高尾園では非常時に備えエンジンポンプの購入をしました。エンジンポンプとは従来、農業用として使用するポンプで、川や池などから水を汲み上げ畑やタンクに水を溜めたりして使用する物ですが、高尾園では非常時にポンプで施設内にある防火水槽から水を汲み上げ、施設内で生活用水として使用する事を目的としています。

購入に至った経緯として、2019年10月12日に発生した台風19号の際、施設内で停電が起これ、トイレの水が流せなくなってしまう非常事態が発生しました。施設でも非常時に備え生活用水を大量に確保していましたが、水が足りなくなりそうになってしまい、大変心配な思いをした経緯があります。

そこで、エンジンポンプを使用し非常時に防火水槽から水を汲み上げ、使用する案が浮上し今回購入となりました。

非常時の際にはライフラインの確保が優先されますが、飲み水の確保はしてあっても、生活用水の確保まで考えると保管場所など難しい問題に直面してしまいますが、このポンプを非常時に使用する事により、生活用水の確保に繋がります。非常時でも利用者に安心して施設内で生活して頂けると思っております。



コロナ禍における
ボランティア活動

今年は新型コロナウイルスの流行に伴い施設行事やそれに伴うボランティア活動もすべて中止となっております。

また、面会等も中止となり入居者には外部の方たちとの交流が少なく寂しい年となりました。そのようななかで、施設開設以来、毎年十一月に退職女性教職員の会の皆様が外庭の花の植え替えにボランティアとして来ます。今年も

新型コロナウイルスが流行しているなかを五名の方々が奉仕作業に汗を流しました。後日、会の代表の平田様からお手紙をいただきましたので紹介させていただきます。

『十一月になると「伊豆中央ケアセンターに花苗の移植に行かなきゃ。」と会員の声。施設に伺い職員の方との共同作業が始まる。来訪者、利用者の方々が咲き誇ったパンジーを眺める姿を思い浮かべながら…。人と人が直接触れ合うことは出来ずとも花を介し心と心が通じ合うことを願いつつ作業は終わる。パンジーは寒さに強い花、花と共に冬を乗り越え春を一緒に待ちわびたい。「お元気で、又来ますね。」とささやかな私たちのボランティア活動の一つです。』

とても心温まるお手紙をいただきました。これからもこの活動を続けていきたいと思っております。



漢字検定(四年間の取り組み)

当デイサービスでは、多岐にわたるプログラムの中、利用者が意欲をもって自ら取り組める活動として、漢字検定受験を実施して、四年が経過しております。

一年目は、利用者に新しい試みへの「挑戦」をして頂けるよう十級合格という具体的な目標へ、楽しく勉強できる様に促し支援しました。二年目・三年目は、受験が上がり難しくなる問題へのサポートとマンネリ化防止、新しい参加者の募集といった、職員

の努力の年となりました。そして、今年、四年目を迎え、継続して受験されている方は七級受験となり、回答方式が変わり、問題用紙と回答用紙が別紙となる方式に変わります。一見、当たり前？と感じますがお年寄りには大きな変化であり、戸惑う方も多くいらっしゃいました。更に、問題数増加、難易度も上がり、合格できないと心が折れてしまう利用者を精神的にサポートする支援を要しました。漢字能力は問題ない方も不安を抱えていました。

令和二年十二月、検定結果が届き十名全員合格！皆様満面の笑顔に職員も一緒に喜びました。

漢字検定を通じ、デイサービスのプログラムとして継続させていく運営側の難しき、継続することで高くなってしまう目標へ、如何にして利用者のモチベーションを維持できるか等々、課題も多くありました。これらの課題は特色あるデイサービスを運営していくための課題でもあり、今後のあしたかホームデイサービスの課題でもあります。



あしたかホーム

3B体操

3B体操とは、「遊びの要素」「気軽に」「体に無理なく」をキーワードに、誰にでも楽しめるように考案された健康体操です。ポール・ベル・ベルターといった用具を使用して音楽に合わせて体を動かします。

日本3B体操協会の公認指導士である入居看護師の新井理恵子さんが月に一回三十分ほど『体操クラブ』を結成して利用者と一緒に操してくれまます。皆さん最初は難しくても、始めると指先を上手に使ってポールを扱い、また見慣れないベルやベルターも足先にかいたり、普段使わない筋肉を無理なく動かして参加してくれまます。コロナ禍の中なので、ユニットごとになってしまいました。午後のひと時を音楽と笑顔で楽しい空間になっていま

す。これからも続けていきたいと思



伊豆中央ケアセンター

絵画展示即売会への参加

昨年は、コロナ禍で各種イベントやお楽しみ行事が中止となり製品販売の機会も減少しました。このような状況の中で、沼津駅前イーラdeの3階アフラック内のギャラリー「エムズ・センチメンツ」にて、もくせい苑で製作した製品の展示即売会が、十月三十一日から十一月二十九日までの間、開催されました。期間中は、新型コロナウィルスの影響で売れ行きを心配していましたが、来場していただいた方々が手に取って、味のある鉄兵ブランを購入していただける姿に、多くの喜びを感じ取ってきまました。また、開催期間の延長要望が多く、十二月十日まで延長を致しました。製品の販売と共に、授産施設で働いている障がいを持つ方への理解を深めていただくと共に、ボランティアの方々にも、改めて感謝を申し上げます。この様な状況下でも、多くの団体や事業所と連携し、趣向を凝らした取り組みをすることによって、施設の運営や利用者さんの活動が幅広く理解される機会となりました。

最後に、今回の会場を提供していただいた、アフラック様や販売の機会を頂いたオールしずおか様に、感謝を申し上げます。



もくせい苑

こども園の取り組みや行事

なかいず認定こども園／発表会



「コロナ禍の中で発表会を開催するにあたり、先生方が様々なご配慮くださり感謝いたします。」発表会のアンケートに、多数の保護者からこのような内容の感想をいただきました。保護者も楽しみにしている発表会を、どのように企画し準備していけば安全で子どもたちの学びも見てもらえるのかと、全職員で真剣に考えてきました。その成果をきちんと評価してくださって本当にうれしい言葉でした。もちろんその前提には、子どもたちが一人一人精一杯の演技をしたからです。

あまぎ認定こども園／コロナ禍の中での行事

新型コロナウイルスの影響は日々の保育に暗い影を落としています。年度初めは市の登園自粛要請で園児が少ないこともあり、すべての行事を中止してきました。

しかし、子ども達から楽しみをすべて奪ってしまうのは避けたいとの思いから、「感染防止対策をして、できる行事は行う」との方針を立て、運動会、発表会、みかん狩り、クリスマス会と実施してきました。

密を避けるため、学年・学級ごとの実施としたり、座席の消毒を実施したりと、気を遣うことが多いですが、何より子ども達の笑顔を見ると苦労も吹き飛んでしまいます。感染拡大が続きますが、今後も子ども達のため、できる行事は実施したいと思います。



◀ 間隔を開けて参観する保護者



ぽっぽとの芋ほり



11月上旬に、高尾園のふれあい農園にて、毎年恒例の芋ほりを行いました。しかし、例年との大きな違いは、長引く感染症の影響にて、利用者さんがその場にいなかったことです。園児さんとの交流を楽しみにしていたのでとても残念です。

今回は、ぽっぽ在園、OB、OG、その保護者の約三十名と大勢の来園でした。さつま芋の出来が心配でしたが、無事に実りの秋を迎え、当日は親子で泥だらけになりながら楽しむ風景にホッと一安心しました。

- 春風会法人本部・特別養護老人ホーム あしたかホーム
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL(055)967-1166(代) FAX(055)967-3566
- 特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター
〒410-2402 沼津市大野304
TEL(0558)72-8111(代) FAX(0558)72-7297
- 特別養護老人ホームめぐもりの里
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-29
TEL(0558)76-6700(代) FAX(0558)76-7511
- 特別養護老人ホームみはるの丘浮島
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL(055)969-3355(代) FAX(055)969-3385
- 障害サービス 生活介護 沼津虹の家
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL(055)967-2220(代) FAX(055)967-3566
- 障害サービス 生活介護 あおばの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-429
TEL(0558)76-6702(代) FAX(0558)76-6702
- 障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47
TEL・FAX(0558)76-6755
- 原高齢者福祉センター
〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL(055)968-4510(代) FAX(055)968-4511
- ふれあいデイサービス(デイサービス一般型)
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL(0558)83-3380(代) FAX(0558)83-3380

- 天城放課後児童クラブ
〒410-3213 伊豆市青羽47
TEL(0558)87-1080
- 中伊豆放課後児童クラブ
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL(0558)83-2911
- 救護施設 沼津市立高尾園
〒410-0001 沼津市足高156-1
TEL(055)921-5722(代) FAX(055)921-5723
- ケアハウスはるかぜ
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL(055)969-3382(代) FAX(055)969-3383
- 小規模多機能施設 北狩野ケアセンター
〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地
TEL(0558)72-8811 FAX(0558)72-8860
- 地域密着型特別養護老人ホーム プレーグあしたか
小規模多機能型居宅介護支援事業所
〒410-0302 沼津市東椎路1639-1
TEL(055)967-3400(代) FAX(055)967-3401
- 地域密着型介護老人福祉施設 プレーグおおひと
〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL(0558)76-7300 FAX(0558)76-7299
- 障害サービスケアホーム などの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437
TEL(0558)77-1017
- 地域活動支援センター サポートセンター絆
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293
TEL(0558)77-1221

- 複合施設 ふらっと月ヶ瀬
〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1
- あまぎ認定こども園
TEL(0558)85-2030 FAX(0558)75-8201
- あまぎデイサービス(デイサービス一般型)
TEL(0558)85-0816 FAX(0558)75-8201
- 就労継続支援B型 事業所プラム(障害サービス)
TEL(0558)85-1919 FAX(0558)75-8201
- プラムカフェ
TEL(0558)85-2551 FAX(0558)75-8201
- 片浜・今沢地域包括支援センター
〒410-0874 沼津市松長12-3
TEL(055)969-7050 FAX(055)968-2177
- 伊豆市修善寺地区地域包括支援センター
〒410-2413 伊豆市小立野66-1 修善寺生きがいプラザ
TEL(0558)99-9301 FAX(0558)99-9302
- なかいず認定こども園
〒410-2505 伊豆市八幡282-1
TEL(0558)75-2810 FAX(0558)75-2811
- はら居宅介護支援事業所
〒410-0311 沼津市原町中2-7-11
TEL(055)941-8333 FAX(055)941-8334